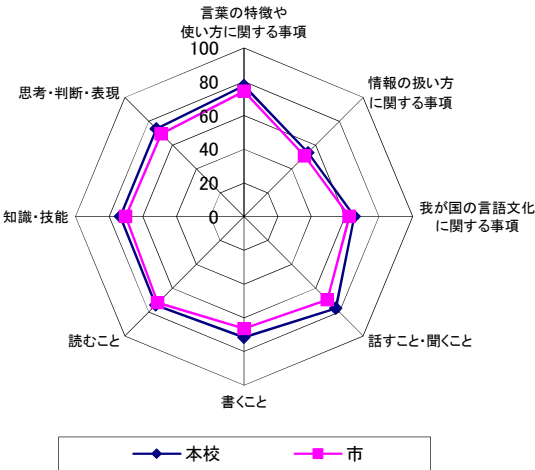


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.7	74.3	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	53.7	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	65.4	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	77.0	69.9	69.7
	書くこと	71.6	66.4	64.6
	読むこと	74.1	72.3	71.0
観点別	知識・技能	73.4	70.1	70.0
	思考・判断・表現	73.7	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

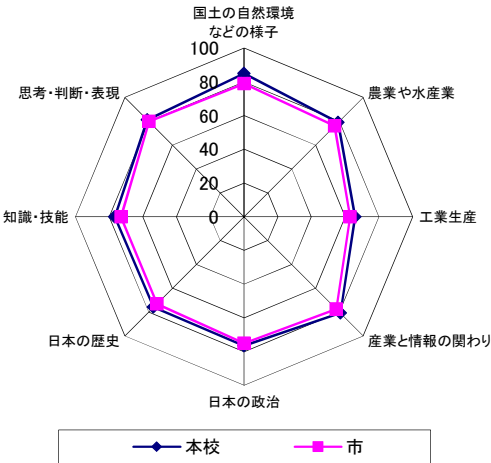
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	○本校の平均正答率は77.7%で、市の平均を3.4ポイント上回っている。 ●敬語や文脈に合った漢字を書くことは、とてもよくできているが、三字の熟語の成り立ちについては、唯一、市の平均を0.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学校での学習に加え、漢字ドリルや小テストを活用するなど、繰り返し学習の充実を図る。 ・既習漢字の復習を行う機会を積極的に設けるとともに、熟語については、成り立ちについての指導にも力を入れる。
情報の扱い方 に関する事項	○本校の平均正答率は53.7%で、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することの正答率が市の平均より2.4ポイント低かった。	・資料を読み、適切に情報を処理する練習を普段の授業で取り入れる。
我が国の言語文化 に関する事項	○本校の平均正答率は、65.4%で、市の平均を3.0ポイント上回っている。	・新出漢字の学習の際は、漢字の由来等についても触れる。
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は77.0%で、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う問題の正答率は、市の平均より19.0ポイント高かった。	・「聞くこと」については、国語の授業のみならず、様々な場面を通して学ぶ機会がある。その中で、相手の意図を考えながら聞き、メモをしたり考えを要約したりする機会を積極的に設ける。
書くこと	○本校の平均正答率は71.6%で、市の平均を5.2ポイント上回っている。特に、グラフから読み取った事実とその事実をもとに自分の意見を述べる問題への正答率が高かった。	・文章の構成を考えながら、自分の意見をを明らかにして書く能力をさらに育てていけるよう、作文指導や討論活動の中で指導していく。
読むこと	○本校の平均正答率は74.1%で、市の平均を1.8ポイント上回っている。特に、文章全体の構成をとらえる問題の正答率が高かった。 ●描写を基に登場人物の心情をとらえる問題は、正答率が%と低かった。	・いろいろな種類の本を読むことを通して、様々な表現技法に触れ、登場人物の心情をとらえたり、それをまとめたりする機会を多く設ける。 ・授業の中で、意見交換などの学び合いの機会を多くもつとともに、自分の意見をしっかりとつことや他の意見を傾聴する態度を養い、主体的な学びができるよう指導を行う。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	84.9	78.9	75.4
	農業や水産業	79.0	76.1	71.2
	工業生産	65.8	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	80.9	77.6	59.7
	日本の政治	76.5	75.0	79.3
	日本の歴史	75.9	73.1	72.8
観点別	知識・技能	76.7	73.0	71.4
	思考・判断・表現	81.2	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

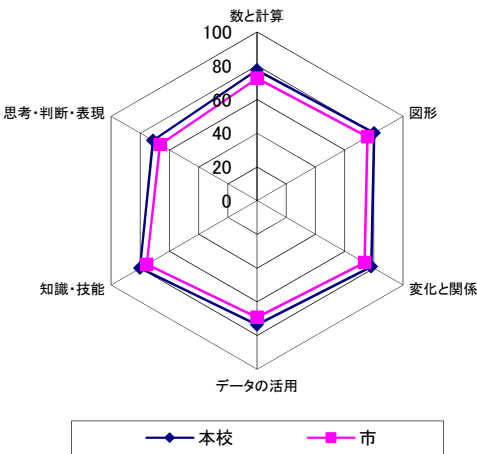
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	○本校の平均正答率は84.9%で、市の平均を6.0ポイント上回っている。 ○日本周辺の海洋名、中国の国旗と位置、津波から生活を守る取組の問題では、平均正答率が95%を上回った。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに地図を読み取る問題の平均正答率は、市の平均を14.5ポイント上回ったが、64.2%にとどまった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の気候の特徴や地域別の特色をもう一度確認するとともに、地図に慣れ親しみ、新出の地名に関しては、その位置を地図で確かめたり、言葉と地図を一致させたりするよう、今後も指導を重ねていく。 ・グラフの読み取り方についても、類似問題に取り組みさせるなど、繰り返し復習させる。
農業や水産業	○本校の平均正答率は79.0%で、市の平均を2.9ポイント上回っている。 ○魚の流通にかかる費用について捉え判断したり、日本の農業人口をめぐる課題について資料を読み取ったりする問題では、正答率が85%を上回った。 ●米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題の平均正答率は、市の平均を2.5ポイント上回ったが、64.2%にとどまった。	・既習領域においても、表やグラフなど資料を適切に読み取ったりまとめたりすることを、繰り返し指導していく。 ・記述式の回答に対しても、言葉を選択し、その内容に沿った文脈で説明できるよう指導していく。
工業生産	○本校の平均正答率は65.8%で、市の平均を2.9ポイント上回っている。 ●日本の鉱産資源の輸入について資料を読み取る問題の平均正答率は、市の平均を0.3ポイント上回ったが、65.4%にとどまった。	・工業生産に関して、工業地帯や工業地域の立地など、資料を提示し、興味・関心を引き出せるよう努める。また、それに合わせて工業地帯などを明記させるなどして、ノート作りの工夫をするよう指導していく。
産業と情報の関わり	○本校の平均正答率は80.9%で、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ○「インターネットの利用」についての知識・技能の問題は、平均正答率が91.4%と高い。 ○「コンビニエンスストア」について、資料に着目して記述式で答える問題は、市の平均を4.2%上回ったが、70.4%にとどまった。	・情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識をもたせながら、正確な情報を受け取り発信する力を定着させるとともに、自ら判断できるように情報モラルについても指導していく。
日本の政治	○本校の平均正答率は76.5%で、市の平均を1.5ポイント上回っている。 ○「非核三原則」についての知識・技能の問題は、市の平均を7.8ポイント上回っている。 ○「国会の仕組み」についての知識・技能の問題は、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ●「日本国憲法の三原則」についての短答式の問題は、市の平均を5.2ポイント下回っている。	・日本の政治については、将来、選挙等に関わりが深まることや私たちの生活に直結することから、教科書や資料集で確認させたり、重要な語句を強調して板書したり、教科書にマーキングさせたりしながら、内容を正しく理解させていきたい。 ・時事問題にふれることで、政治や憲法への興味関心を高めるようにする。
日本の歴史	○本校の平均正答率は75.9%で、市の平均を2.8ポイント上回っている。 ○「室町時代の文化」についての知識・技能の問題は、平均正答率が91.4%と高く、市の平均を17.0ポイント上回っている。 ●「飛鳥時代の出来事」についての知識・技能の問題は、平均正答率が46.9%と低く、市の平均を11.9ポイント下回っている。	・1つの資料だけでなく、いくつかの資料を組み合わせながら、事象をしっかりと捉え、その時代の様子や繋がり等が把握できるよう、指導を重ねていく。 ・記述式の回答に課題が見られるので、各時代の内容を5W1Hに沿って整理したり、自分の考えを文章でまとめたりするよう助言していく。 ・日常のノート指導を通して、よりよいノートの作り方やまとめ方を指導していきたい。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.4	72.6	73.1
	図形	80.2	75.7	74.7
	変化と関係	78.2	73.6	66.1
	データの活用	73.7	69.2	70.7
観点別	知識・技能	80.2	75.5	74.4
	思考・判断・表現	71.2	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

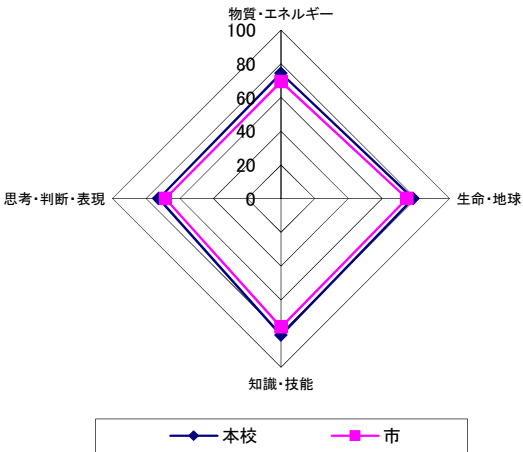
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は77.4%で、市の平均を4.8ポイント上回っている。 ●文字を使った式を表す場面を選択する問題では、市の平均を3.9ポイント下回った。	・プリントやドリル等を活用し、計算問題を繰り返し練習する。特に、小数点の位置の決め方や分数の計算における通分、約分の方法を教科書等で確認させ、定着を図る。 ・Aドリルの活用により、個人の課題に応じたスキルトレーニングを通して、主体的な学習習慣を醸成する。 ・文字を使った式で表す場面の理解では、線分図等に表す活動を取り入れてきたが、より一層の定着と深化を図る。
図形	○本校の平均正答率は80.2%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ○三角形の内角の和が180度であることをもとに、三角形の外角を求める問題では、市の平均を11.0ポイント上回った。 ●合同な三角形の作図の問題では、市の平均を0.1ポイント下回った。	・高さが図形の外にある平行四辺形等の面積の求積については、三角定規の直角を活用して、底辺と高さの位置関係を捉えるようにするとともに、Aドリルを活用して、個に応じた問題場面に触れさせていく。 ・合同な三角形の作図については、3点を決定する多様な方法を検討する中で、効率的な方法を3つに整理させていく。併せて、定規・分度器・コンパスの使い方の習熟を図っていく。
変化と関係	○本校の平均正答率は78.2%で、市の平均を4.6ポイント上回っている。 ○すべての問題で市の平均を3ポイント以上上回っており、中でも分速を秒速や時速に直す問題では、市の平均を7.3ポイント上回った。	・速さの問題については、時速・分速・秒速の関連を「単位量当たりの大きさ」の見方考え方に基づいて考えられるよう、数直線に表しながら捉え、理解の深化を図っていく。
データの活用	○本校の平均正答率は73.7%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ・「代表値を用いて、記録が半分より高いかどうかを説明する。」の問題の平均正答率は、市の平均を14.6ポイント上回っているが、44.4%にとどまった。	・円グラフ、帯グラフの読み取りについては、割合に当たる数量が全体に対する比較量であることを、割合の数直線の活用を図りながら指導するとともに、割合の増加化が数量の増加に必ずしも結び付かないことへの理解を深めさせる。 ・代表値を基にした説明については、平均値・中央値・最頻値の意味を捉えさせ、いろいろな場面に触れさせることで、その特徴への理解を深めさせていく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.4	69.3	65.7
	生命・地球	78.4	74.7	77.8
観点別	知識・技能	81.0	76.2	76.4
	思考・判断・表現	72.5	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は74.4%で、市の平均を5.1ポイント上回っている。 ○ほぼすべての設問において市の平均正答率を上回った。特に、「物の溶け方」「物の燃え方」に関する問題の平均正答率が91.4%と高かった。 ●物の燃え方の働きを調べる比較実験の問題の平均正答率が市の平均を5.9ポイント下回った。	○気体の名称や働きなどの知識はよく理解できている。一方で、そうした働きを比較実験を通して調べる問題については、正答率が低い。比較実験の目的や実験方法の細かい違いなどを理解できるよう、分析的な活動を授業に取り入れるなどして工夫を行っていく。
生命・地球	○本校の平均正答率は78.4%で、市の平均を3.7ポイント上回っている。特に、「天気の変化」「植物のからだのつくりやはたらき」や「生物とかんきょう」に関する問題の平均正答率がそれぞれ97.5%と高かった。 ●「動物のからだのつくりと働き」を答える問題の平均正答率が市の平均を1.5ポイント下回った。	○植物のつくりやはたらきの学習など、実験で確かめることができる内容に関しては、よく理解できている。一方で、因果関係を検証するための対照実験を中心とした問題については、正答率が低いものも見られる。因果関係について理解が深められるよう、学習内容をまとめたり表現したりする活動を取り入れるなど、活動の工夫を行っていく。

宇都宮市立峰小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成	様々な場面で書く指導の充実を図っている。学年の実態に応じて、書くテーマや内容項目、字数など条件に合わせた作文指導を行っている。	6年生の国語科の「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く」問題の平均正答率は34.6%で、市の平均を8.1ポイント上回った。算数科の「個人の記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明する」問題の平均正答率は44.4%で、市の平均を14.6ポイント上回った。「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートにまとめている。」の肯定割合は、学年によって差はあるが、学校全体としては市の平均に比べ、4.2ポイント高い。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに「家庭学習の手引き」を作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習を意識させている。家庭学習がんばり週間を設け、継続的な家庭学習への取組を促している。	全学年の「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合は、市の平均を3.2ポイント上回っている。1・2年生では、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は市の平均を5.4ポイント上回っているが、3～6年生は、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は市の平均を1.0ポイント下回っている。また、「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の肯定割合は、学校全体としては、市の平均を5.9ポイント上回っているが、56%にとどまっている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査において、書くことの領域で、市の平均と比べて高く、また、市の調査の6年国語科の「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く」問題及び、算数科の「個人の記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明する」問題の平均正答率が、市の平均を上回っている。児童質問紙「授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートにまとめている」の肯定割合についても、学年によって差はあるが、学校全体としては市の平均を上回っている。自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成に取り組んできた結果であると言える。次年度も継続してテーマや字数などの条件に合わせた作文指導に取り組むとともに、グラフ等を読み取り分かったことを、自分の考えを整理してまとめられるような指導を取り入れ、一層の表現力の育成に努める。

・国・県・市の調査において「宿題をきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合は市の平均を上回っているが、自ら取り組む態度に関わる項目では市の平均を下回っている。また、「学習したことをその日のうちに復習している」の肯定割合も市の平均よりも上回っているが、決して高くはない。次年度は、復習を意識しながら計画的にAIドリルを活用し、自主学習ノートなどを用いて自主学習に取り組む指導を充実させるとともに、ノート指導の充実も図る。

